



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	西フリジア語の文法構造：あとがき、参考文献、目次
Author(s)	清水, 誠
Citation	北海道大学文学研究科紀要, 114, 63-113
Issue Date	2004-11-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/34075
Type	departmental bulletin paper
File Information	114_PL63-113.pdf



西フリジア語の文法構造 —— あとがき, 参考文献, 目次 ——

清 水 誠

Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk
—— epilooch, bibliografy, ynhâldsopjefte ——

(*The Annual Report on Cultural Science* No. 114). Graduate School of
Letters. Hokkaido University. Sapporo. Japan 2004. ISSN 1346-0277)
SHIMIZU Makoto (mshimizu@lit.let.hokudai.ac.jp)

あとがき

I. 概要

1995年から2004年までの10年間, 17回にわたって『北海道大学文学部紀要』および『北海道大学文学研究科紀要』に発表してきた一連の論文は, オランダのフリースラント州(フ. (=西フ.) *Provinsje Fryslân*) で用いられる西フリジア語(フ. *Westerlauwersk Frysk*, 約35~40万人)の標準語にかんする音韻と文法(以下, 「文法」)の体系的記述である。

西フリジア語は北ドイツの北フリジア語(北フ. *Nordfriisk*, 約9,000~10,000人)と東フリジア語(東フ. *Seeltersk*, 約1,500~2,500人)とともに, 歴史的に北海ゲルマン語(フ. *Noardseegermaansk*)の唯一の後裔であるフリジア語を構成する。しかし, フリジア語としての統一的な標準語は現在も過去にも存在せず, 相互理解はほとんど不可能である。この意味

でフリジア語は単一の言語ではなく、厳密には「フリジア語群」と称するのがふさわしい。

「西・北・東フリジア語」という名称は地理的分布に基づく俗称で、エ. West Frisian/ド. Westfriesisch, North Frisian/Nordfriesisch, East Frisian/Ostfriesisch に対応する訳語である。とくに「西フリジア語」(エ. West Frisian/ド. Westfriesisch)と「東フリジア語」(エ. East Frisian/ド. Ostfriesisch)は、言語学的には厳密な意味で適切な名称とは言えない。オランダ語名 Westfries はエイセル湖(オ. IJsselmeer) 対岸の非フリジア語地域である「西フリースラント」(オ. Westfriesland)のオランダ語方言、すなわち「オランダ語西フリースラント方言」を指す。「西フリジア語」の正式名称は上述のように、フ. Westerlauwersk Frysk (オ. Westerlauwers Fries) であり、「ラウエルス湖(フ./オ. Lauwers) 以西のフリジア語(フ. Frysk/オ. Fries)」を意味する。同様に、ドイツ語名 Ostfriesisch は非フリジア語地域である「東フリースラント」(ド. Ostfriesland)のドイツ語方言、すなわち「低地ドイツ語東フリースラント方言」を指す。「東フリジア語」の正式名称は上述のように、東フ. Seeltersk であり、これは北ドイツ・ニーダーザクセン州(ド. Niedersachsen)で東フリースラントの外に位置するクロペンブルク郡(ド. Landkreis Cloppenburg)のセールターロウンド(東フ. Seelterlound/ド. Saterland「ザーターラント」)の三つの村で用いられる。ドイツ語では一般に、誤解を防ぐために、Westfriesisch のかわりに Westerlauwersches Friesisch という用語を用い、Ostfriesisch のかわりに Saterfriesisch という用語を用いる。

本論文では「西フリジア語」(同様に「北フリジア語」「東フリジア語」という用語をあえて用いるが、筆者は従来、地理的・行政的名称として「フリースラント」、言語的(文化的)名称として「フリジア」という用語を区別して用いており、誤解の余地はない。「ラウエルス湖以西のフリジア語」という用語は煩雑で、実用的ではない点でも、これが妥当な措置と考えられる。

フリジア語(群)の中で、西フリジア語では、オランダの地域的公用語として機能するために十分な標準語としての言語規範が確立している。しかし、

近年の西フリジア語はオランダ語から強く影響を受け、オランダ語からの言語干渉が若い世代を中心に顕著に見られる。このことを意識して、標準西フリジア語の言語規範はオランダ語からできるだけ距離を置こうとし、この言語擁護の姿勢は社会的に広く認められている。ときには人工的な面を見せることがあるものの、今日の西フリジア語は近年のオランダ語の影響を極力排除しても、不自然でない十分な独立性を保持し得る段階にとどまっている。こうした現状に鑑みて、本論文では地域差や階層差への言及は最小限の注記にとどめ、文章語として確立された標準語の記述に焦点を当てることを原則とした。それは同時に、本来の西フリジア語に特有の現象を積極的に採り上げることを意味し、言語学的に興味深い話題を数多く提供することにつながった。

II. 内容と構成

全体の構成としては、音韻と正書法に続いて、形態と統語を区別せず、品詞別にまとめて扱う伝統的な方法を採用した。したがって、文の構造はそれぞれ関連の深い個別の品詞の項目で論じられている。たとえば、枠構造は従属接続詞の章、中域の目的語の語順は代名詞の章、右枠の動詞群の語順は動詞の最終章でそれぞれ解説してある。品詞別の構成ではあるが、統語的扱いが不十分であるということはけっしてなく、むしろその逆であって、個々の品詞の枠内で、用法上の発展的な解説が随所に織り込まれている。これによって、西フリジア語の構造がかえってより鮮明かつ容易に把握し得ると確信している。

本論文で挙げた用例は、とくに西フリジア語教育委員会 (AFUK: Algemene Fryske Underrjocht Kommisje) が刊行する一連のオランダ語話者向きの学習教材から広く採集した。そのほかに、各種のテキスト、辞書、論文、文法書から援用した用例もかなりある。ただし、文法記述に必要とされる特殊な用例、とくに「誤った用例」は既存の文献資料からは求めがたい。これについては、後述の西フリジア語話者の方々には直接のインフォーマントとしてご協力いただいた。一般の話者の西フリジア語はオランダ語の影響を

さまざまな形で受けていることが多く、高年齢者は当該地域の方言や、各都市に特有の都市フリジア語（フ. Stedsk/Stedfrysk）と呼ばれるオランダ語との混成言語を母語とし、標準語を必ずしも厳格に意識しないことが多い。本論文のインフォーマントは西フリジア語研究者あるいは西フリジア語の擁護に携わっている専門家であり、信頼できる標準語のデータを提供していただくことができた。文献からの用例の引用はたんなる孫引きに終始せず、筆者の調査と判断によって必要に応じて変更を加えたものが多い。文献からの用例には出典を示し、種々の理由によって筆者の判断あるいはインフォーマント調査によって変更したものには「変更」と記した。出典の記載がないものは原則として筆者が作成し、インフォーマント調査によって確認したものである。説明上、とくに示唆的あるいは独創的と判断された箇所についても逐次、出典を示し、筆者の私的な解釈とはできるだけ区別するように工夫した。用例、解説ともに誤記、誤解の責任はすべて筆者にある。用例に添えた和訳は西フリジア語原文の解釈を容易にする目的で添えた逐語的な直訳であり、かならずしも自然な日本語にはなっていないことをお断りしておく。

Ⅲ. 意義

本論文の意義は、まず、記述の量に求められる。19世紀後半以来、西フリジア語の代表的な文法書には次のものがある（年代順に挙げ、ページ数を bls. として付記する）。

Sytstra, H. S. 1856/1862. *Inleiding tot de Friesche spraakkunst.* — *Klank- en schriftleer der Friesche taal./ Woordenleer der Friesche taal.* Leeuwarden. Kuipers. (156 bls.)

Colmjon, G. 1863. *Beknopte Friesche spraakkunst voor den tegenwoordigen tijd.* Leeuwarden. Kuipers. (156 bls., 文法部分 97 bls.)

Van Blom, Ph. 1889. *Beknopte Friesche spraakkunst.* Joure. R. P. Zijlstra. (179 bls.)

- Postma, G./De Clerq, P. 1904. *Lytse Fryske spraekleare, it Westerlauwersk Frysk om 1900 hinne oangeande*. Ljouwert. Van der Velde. (128 bls.)
- Sipma, P. 1913. *Phonology and grammar of modern West Frisian*. London et al. Oxford University Press. (175 bls., 文法部分 92 bls.)
- Sytstra, O. H./Hof, J. J. 1925. *Nieuwe Friesche spraakkunst*. Leeuwarden. Van der Velde. (274 bls., 文法部分 177 bls.)
- Sipma, P. 1948-1949. *Ta it Frysk. I. Ynljeding, klanklear, stavering; II. Wurdlear; III. Bûgingslear, sinlear*. Ljouwert. Van der Velde. (75 bls.+79 bls.+91 bls.=245 bls.)
- Anglade, J. 1966. *Petit manuel de frison moderne de l'ouest*. Groningen. Wolters. (152 bls., 文法部分 70 bls.)
- Fokkema, K. 1967². *Beknopte Friese spraakkunst*. Groningen. Wolters. (151 bls., 文法部分 89 bls.)
- Boersma, J./Van der Woude, G. 1981²/1980². *Spraaklear I, II*. Ljouwert. Algemeine Fryske Underrjocht Kommisje. (106 bls.+111 bls.=217 bls.)
- Zhluktenko, Ju. A./Dvukhzhilov, A. V. 1984. *Frizskij jazyk*. Kiev. Naukova Dumka. (200 bls., 文法部分 173 bls., 現代西フリジア語文法部分 88 bls.)
- 兒玉仁士. 1992. 『フリジア語文法』東京. 大学書林. (292 bls., 文法部分 245 bls.)
- Hoekema, T. 1996. *Beknopte Friese spraakkunst*. Ljouwert. Afûk. (83 bls.; 1968 デンマーク語原典 33 bls., 1992 ドイツ語訳 53 bls.)
- Tiersma, P. M. 1999². *Frisian reference grammar*. Ljouwert. Fryske Akademy. (147 bls., 文法部分 131 bls.)

このほかに、筆者の知る限り、現時点で計画中または執筆途中のものとして、Popkema, J. *Koarte Fryske taalkunde* と De Haan, G. J. *A short*

introduction to the grammar of Frisian がある。また、フリスケ・アカデミー (Fryske Akademy) のフィセル博士 (dr. Willem Visser) とディク博士 (dr. Siebren Dyk) を中心とする研究グループが新しい詳細な現代西フリジア語文法を計画中である。

上記の一覧表から単純にページ数を比較してもわかるように、本論文は現存する量的に最大の包括的な西フリジア語の文法記述である。

さらに、フリジア語一般に範囲を拡大すると、筆者の知る限り、単一言語(あるいは方言)の文法記述としては、北フリジア語モーリング方言とセルリング方言にかんする次の2点がこれまでで最大である。

Bendsen, B. 1860. *Die nordfriesische Sprache nach der Moringer Mundart zur Vergleichung mit den verwandten Sprachen und Mundarten*. Leiden. Brill. (479 bls., 文法部分 404 bls.)

Lasswell, S. T. 1998. *An ecological reference grammar of Sölring North Frisian*. Dissertation. University of California. Santa Barbara. (390 bls.)

単純にページ数を比較してもわかるように、本論文は両者を量的にはるかに上回っている。

以上のことから、本論文は量的な面で、現存する最大のフリジア語の文法記述であると言える。

なお、歴史的視点からのフリジア語全体あるいは北フリジア語全体の文法記述、それにフリジア語全体の概観としては、次の4点が最大である。ただし、これは本論文とは性格が異なり、比較の対象とはなりがたい。

Siebs, Th. 1899. *Geschichte der friesischen Sprache*. Paul, Hermann (Hrsg.). *Grundriß der germanischen Philologie*. Straßburg. Trübner. 1152-1464. (313 bls.)

Löfstedt, E. 1968/1971. *Beiträge zu einer nordfriesischen Grammatik*

- I. Das Substantiv und das Adjektiv, das Zahlwort und der bestimmte Artikel./II. Das Pronomen, das Adverb, Präpositionen, Konjunktionen und das Verbum.* Uppsala. Acta Universitatis Upsalien-sis. Studia Germanistica Upsaliensis. (187 bls.+120 bls.=307 bls.)
- Markey, T. L. 1981. *Frisian*. (Trends in Linguistics — S. A. R. 13) The Hague/Paris/New York. Mouton. (335 bls. 内容に問題点が多いとされる)
- Munske, H. H. (Hrsg.). 2001. *Handbuch des Friesischen/Handbook of Frisian studies*. Tübingen. Niemeyer. (845 bls.)

次に、本書の意義は質的な面に求められる。上記の一連の完結した西フリジア語文法書の中で内容的に今日の言語学的水準に達しているのは、私見では Tiersma (1999²) のみである。同書は 1985 年の初版 (Dordrecht/Cinnaminson. Foris 刊行) にドイツ、キール (Kiel) 大学のフクストラ教授 (Prof. Dr. Jarich Hoekstra) が手を加えた改訂版だが、初版の本文をそのまま継承し、注の部分で散発的に内容の充実を図っているにすぎない。したがって、その後の研究成果は十分に取り入れられているとは言えず、理論的にも若干の問題点が散見される。現代言語学の視点からもっともすぐれた記述と思われるのは、(上記の未完の De Haan, G. J. *A short introduction to the grammar of Frisian* を除けば) 次の 2 点の論文であると思われるが、量的に十分と言うには程遠い。

- Hoekstra, J./Tiersma, P. M. 1994. "Frisian". König, E./Van der Auwera, J. (eds.). *The Germanic languages*. London/New York. Routledge. 505-531.
- Hoekstra, J. 2001. "Standard West Frisian". Munske, H. H. (Hrsg.). *Handbuch des Friesischen/Handbook of Frisian studies*. Tübingen. Niemeyer. 83-98.

フリジア語学の業績はけっして少なくないが、一個人がそのすべてに目を通すことがまったく不可能というわけではない。フリジア語学、とくに西フリジア語学の業績については、フローニンゲン大学フリジア語学科が毎年、更新しながら作成している次の包括的なリストがある。

Literatuerlisten stúdzje Frysk. Frysk Ynstitút RUG. (Oude Kijk in 't Jatstraat 26. Harmoniecomplex, keamer 359. 9712 EK Grins)

本論文の執筆では、このリストを参考にしつつ、そこから漏れている文献も独自の調査によって明らかにし（たとえば、Sytstra, H. S. (1856/1862) は上記のリストには含まれていない）、後述の手段を通じて現地の図書館等で広く収集しながら、西フリジア語学研究の全体像を網羅的に把握することを旨とした。そして、フリジア語学関係の大部分の重要文献を比較検討し、現時点までの研究成果をできるだけ多く吸収することによって、可能な限り正確かつ広汎に記述に反映させるように努めた。西フリジア語が用いられるオランダは、生成文法をはじめとしてヨーロッパ現代理論言語学の最高峰に位置し、フリジア語研究者も大部分が最新の理論言語学に通暁している。本論文では、後述するように、代表的なフリジア語研究者と密接な個人的交流を保ちながら、議論と調査を数多く重ねつつ、理論的説明を言語記述にとって有益なレベルに還元した上で、内容的充実を図ることを心掛けた。

本論文ではまた、ゲルマン語研究者としての問題意識を生かすように努めた。従来の西フリジア語の文法記述はオランダ語との言語干渉に注意を促すことはあっても、他のゲルマン語との比較への言及は稀である。筆者はドイツ語、英語、オランダ語、北フリジア語などのいわゆる西ゲルマン語に加えて、北欧スカンジナビアの北ゲルマン諸語を古語を含めて広く研究対象としており、筆者の研究テーマであるゲルマン語類型論の視点から西フリジア語の言語事実をとらえ直すことを念頭に置きつつ、文法記述の範囲内でそれを有効に反映させることに尽力した。

本論文では日本語話者として、ゲルマン語研究者が看過しがちな言語事実

にも配慮した。従来の伝統的な西フリジア語文法のみならず、一般向けの成人用講習教材や学校教育用の学習教材は、オランダ国内での普及を念頭に置いており、オランダ語話者向けの片寄った説明が目立つ。したがって、オランダ語以外の言語使用者にとっては理解が困難な場合が多い。筆者がもっとも苦労したのはこの点である。オランダのフリスケ・アカデミー (Fryske Akademy) が1984年から毎年1巻のペースで刊行している西フリジア語大辞典 (*Wurdboek fan de Fryske taal/Woordenboek der Friesse taal*) はオランダ語との対訳辞書であり、未完である。使用に耐える完結した辞書は下記のオランダ語との対訳辞書であり、同じく下記の英語との対訳辞書は2000年になって刊行された。

- Dijkstra, W. 1990-11. *Friesch woordenboek (Lexicon friscum)*. (1971 復刻版). Amsterdam/Leeuwarden. S. Emmering/De Tille.
- Zantema, J. W. 1984. *Frysk wurdboek. Frysk-Nederlânk. 1*. Drachten/Ljouwert. Osinga/Fryske Akademy. (1220 bls.)
- Visser, W. 1985. *Frysk wurdboek. Nederlânsk-Frysk. 2*. Drachten/Ljouwert. Osinga/Fryske Akademy. (921 bls.)
- Dykstra, A. 2000. *Frysk-Ingelsk wurdboek/Frisian-English dictionary*. Afûk/Fryske Akademy. (1153 bls.; English-Frisian word list, 319 bls.を含む)

最近の西フリジア語研究は理論言語学の浸透や研究者の意識の変化の結果、広い視野から行なわれるようになりつつあるが、本論文はこうした傾向と軌を一にするものであり、フリジア語学の国際化、あるいは西フリジア語の言語擁護にもささやかな貢献をすることがあればと願っている。

日本人の業績としては、上記のリストに記載した、児玉仁士著『フリジア語文法』(1992 大学書林)と同著者による『フリジア語辞典』(2004 大学書林)がある。とくに前者はヨーロッパ以外で刊行された最初の西フリジア語文法書としてパイオニア的意義がある。しかし、私見では同書は数多くの

誤記、誤解を含んでおり、西フリジア語の正しい姿を伝えているとはいえない。この点については次の論文で指摘した。

Makoto, Shimizu. 1993. “Naar aanleiding van Hitoshi Kodama, *Fryske grammatika*”. *Us Wurk* 42. 103-114.

清水 誠. 1996. 「西フリジア語文法記述の問題点」『北海道大学文学部紀要』44-3. 41-107

本論文は同書の不十分さを補い、日本における信頼できる西フリジア語の文法記述を提供する役割を果たす役割を担うものである。

IV. 経過と謝辞

これまで日本には上記の兒玉氏の文法書を除いて、フリジア語学研究の蓄積にはほとんど見るべきものがなかった。日本にはフリジア語学を専攻できる大学は存在せず、オランダ語学を主専攻とすることが可能な高等研究教育機関さえ、根絶されて以来、1世紀以上が経過している。このような現状から、本論文の執筆は筆者の独力によって一から手探りで始めなければならなかった。そのためには、日本では入手不可能なほとんどすべてのフリジア語学文献の収集に加えて、代表的なフリジア語研究者との交流とドイツとオランダの代表的な研究・教育・行政機関との密接な連絡が不可欠だった。それが可能になったのは、ドイツ学術交流会 (DAAD) の援助によるキール大学北フリジア語辞書編集所 (Nordfriesische Wörterbuchstelle, Universität Kiel, 1989 年 9 月～1990 年 9 月) とオランダ政府奨学金 (NUFFIC) の援助によるフローニンゲン大学フリジア語学科 (Frysk Ynstitút/Fries Instituut, Rijksuniversiteit Groningen, 1993 年 9 月～1994 年 9 月) での研究滞在、それに、オランダのフリスケ・アカデミー (Fryske Akademy, Ljouwert/Leeuwarden) の正会員への任命 (1994 年 10 月) による恩恵が多大であった。オランダの在外フリジア人協会 (It Frysk Boun om Utens, Bovensmilde/Assen) の名誉会員への推挙 (2003 年 5 月) とドイツの北フリジア語文化研

究所（Nordfriisk Instituut, Bräist/Bredstedt）の運営母体である北フリジア語文化研究学術協会（Der Verein Nordfriesisches Institut）の会員認定（2003 年 6 月）も励みになった。このほかに、オランダ、ドイツの各種の新聞・雑誌記事への寄稿、インタビューやテレビ出演の要請にもありがたく応じた。本研究にたいするオランダ、ドイツでの好意的な反応は、フリジア語とその文化に寄せられる社会的関心、そして、今日のヨーロッパにおけるいわゆる少数言語の存在意義を改めて筆者に認識させた。

フリジア語学にかんする以下の文部科学省・学術交流会の科学研究費補助金の交付もまた、筆者のフリジア語学研究の進展にとって不可欠だった。

「大陸部北海沿岸の西ゲルマン語相互の接触と類型論的特徴の変化」（奨励研究（A）．平成 7 年度．研究代表者．課題番号 07710346

「連続性概念による言語モデルの再構築——ドイツ語学の諸相から」（基盤研究（B）（2）．平成 8～9 年度．研究分担者．課題番号 08451101

「ドイツ語・オランダ語・フリジア語の対照文法記述——西ゲルマン語類型論に向けて」（基盤研究（C）（2）．平成 10～13 年度．研究代表者．課題番号 10610491

「西フリジア語文法記述のための最終的研究——ゲルマン語類型論の構築に向けて」（基盤研究（C）（2）．平成 14～16 年度．研究代表者．課題番号 14510599

なお、上記の紀要に発表した 17 編の論文は、フリジア語一般の歴史と現状についての解説を補足する意味で、『ドイツ文学 108』（日本独文学会編、2002.45-58）所収の「フリジア語群の三つの生態と多言語使用」の章を巻末に添えて、下記の論文博士学位請求論文として 2003 年（平成 15 年）に北海道大学に提出し、同年 12 月に博士号（文学）の学位を授与された。審査にあたられた植木迪子先生（主査）、山田貞三先生、藤田 健先生に心から感謝申し上げます。

『西フリジア語文法 — 現代北海ゲルマン語の体系的構造記述とゲルマン語類型論構築のための基礎的研究 —』（13+838 pp.）

ただし、上記の博士論文は 1995 年以降に発表した一連の論文を基礎にしているために、それから 10 年余りが経過しており、当然のことながら、各論文は発表時期をさかのぼるほど、その後の研究成果を反映する度合いが少なくなる。西フリジア語の研究者の数は他のいわゆる大言語に比べて、けっして多くない。しかし、少数言語ゆえに従来の研究成果の蓄積は相対的に乏しく、近年の研究者の増加と研究内容の進展は、かえって大言語の場合よりも顕著であるとも言える。それゆえ、上記の博士論文としてまとめるにあたっては、各論文に発表後の研究成果を可能な限り追加し、大幅な変更を施すことも厭わなかった。また、誤植については各論文の巻末にそのつど訂正を施したが、その後、見つかったものも少なくない。それについてはここでの記載を省き、上記の博士論文にできるだけ訂正を施した。

なお、上記の博士論文は北海道大学大学院文学研究科の申し合わせに従って、オンデマンド方式で公開され得る予定である（問い合わせ先：「コンテンツワークス株式会社」（Contents Works Inc. 〒112-0014 東京都文京区関口 1-24-8 東宝江戸川橋ビル 3 F, tel. 03-5227-3001, fax. 03-5227-2050, <http://www.contentsworks.co.jp>））。

最後に、本論文の執筆にさいして様々な面でとりわけ協力を惜しまれなかった下記ドイツとオランダの恩師、知人の皆さんに心からお礼申し上げる。これ以外にも、TAALSTUDZJE@NIC.SURFNET.NL によるネット上での度重なる質問にお答えいただいた多くの方々に感謝申し上げたい。

ゲルメン・デ・ハーン教授（prof. dr. Germen J. Haan）：オランダ、フ
ローニンゲン大学フリジア語学科教授
ピテル・ブレーケル博士（dr. Pieter Breuker）：同大学同学科教員
ウベレ・フリエス博士（dr. Oebele Vries）：同大学同学科教員
チエト・デ・グラーフ博士（dr. Tseard de Graaf）：同大学言語学科元

教員、フリスケ・アカデミー研究員

サーキエ・ファン・デレンさん (mevr. Saakje van Dellen)：同大学フ
リジア語学科職員

ラメト・ヨーンスマ博士 (dr. Lammert Jansma)：オランダ、フリスケ・
アカデミー所長

ヴィレム・フィセル博士 (dr. Willem Visser)：同アカデミー研究員

シエブレン・ディク博士 (dr. Siebren Dyk)：同アカデミー研究員

オーネ・ディクストラ氏 (drs. Anne Dykstra)：同アカデミー研究員

ヘンク・ヴォルフ氏 (drs. Henk Wolf)：同アカデミー研究員

トニ・ファイツマ教授 (prof. dr. Tony Feitsma)：アムステルダム大学
フリジア語学科名誉教授

クーン・ゾンダハ博士 (dr. Koen Zondag)：オランダ、フリースラント
州教育委員会 (M. S. U.) フリジア語教育掛元主任

ヤーラハ・フクストラ教授 (Prof. Dr. Jarich Hoekstra)：ドイツ、キー
ル大学北欧語学科フリジア語学教授

ブー・シェリーン教授 (Prof. Dr. Bo Sjölin)：同大学同学科・北フリジ
ア語辞書編集所名誉教授

オモ・ヴィルツ博士 (Dr. Ommo Wilts)：同大学同学科・同編集所元教
員

アラスタイル・ウォーカー博士 (Dr. Alastair G. H. Walker)：同大学
同学科教員

インゲリーネ・ハーマンさん (Frau Ingeline Hamann)：同大学同学科・
同編集所元職員・講師

トーマス・シュテーンゼン教授 (Prof. Dr. Thomas Steensen)：北フリ
ジア語文化研究所所長，フレンスブルク教育大学客員教授

ニルス・オールハンマル教授 (Prof. Dr. Nils Århammar)：同研究所
副所長，フレンスブルク教育大学名誉教授

アデリーネ・ペーターゼンさん (Drs. Adeline Petersen)：同研究所研究
員，キール大学北フリジア語辞書編集所元研究員

参 考 文 献

- Abraham, W./Janssen, Th. (Hrgs.). *Tempus-Aspekt-Modus*. Tübingen. Niemeyer.
- Anglade, J. 1966. *Petit manuel de frison moderne de l'ouest*. Groningen. Wolters.
- ANS 1984. *Algemene Nederlandse spraakkunst*. Geerts, G./Haeseryn, W./De Rooij, J./Van der Toorn, M. C. (útj.). Groningen/Leuven. Wolters-Noordhoff/Wolters.
- Århammar, N./Spenter, A. (útj.). 1979. *Scripta Frisica. Tinkbondel foar Arne Spenter. Us Wurk* 28.
- Arts, S. E./Van Dijk, H. J. 1987. *Pfeiler. Grammatica Duits*. Zutphen. Thieme.
- Bangma, J. 1993². *Wolkom! Kursus Frysk fersteat en lêzen*. Ljouwert. AFUK.
- Bech, G. 1952. *Über das niederländische Adverbialpronomen 'er'*. *Travaux du cercle linguistique de Copenhague*. Vol. VIII.
- Bech, G. 1955. *Studien über das deutsche Verbum infinitum. Bd. I*. København. Det Kongelige Danske Videnskabernes Selskab. (Tübingen. Niemeyer. 1983²)
- Beintema, T. 1990. *Goed zo, Sicco/Maoi sa, Sikke. Frysk sprekwurdeboek mei Nederlânske oersetting, ferklearring of taljochting/Fries spreekwoordenboek met Nederlandse vertaling of toelichting*. Drachten/Ljouwert. Osinga.
- Beukema, F./Coopmans, P. (eds.). *Linguistics in the Netherlands 1987*. Dordrecht. Foris. 185-194.
- Bibel. Ut de oanspronklike talen op 'e nij yn it Frysk oerset*. 1989² (1978). Haarlem. Nederlands Bijbelgenootschap/Boxtel. Katholieke Bijbelstichting.

- Bloemhoff, H. 1979. “Heranalyse van een Stellingwerper oppervlakte-structuur”. Århammar/Spenter (útj.). 1979. 31-38.
- Boelens, K. 1952. “Hwannear wurdt de skreaune ‘r’ yn it Frysk útsprutsen?”. *Us Wurk* 1. 45-48, 59-64.
- Boelens, K. 1993. *De Fryske taal*. Ljouwert. AFUK.
- Boelens, K. et al. 1981. *Twataligens*. Ljouwert. AFUK.
- Boelens, K./Van der Woude, G. 1955. *Dialectatlas van Friesland (Nederlandse en Friese dialecten)*. I. Teksten, II. Kaarten. Antwerpen. Reeks Nederlandse dialectatlassen 15.
- Boersma, J./Van der Woude, G. 1981². *Spraaklear I*. Ljouwert. AFUK.
- Boersma, J./Van der Woude, G. 1980². *Spraaklear II*. Ljouwert. AFUK.
- Booij, G. 1988. “Complex nuclei and breaking in Frisian”. *Vrije Working Papers in Linguistics* 30. Amsterdam. 1-35.
- Booij, G. 1989. “On the representation of diphthongs in Frisian”. *Journal of Linguistics* 25. 319-332.
- Bosma-Banning, A. 1981². *Bûter, brea en griene tsiis: Grammofoanplatekursus Frysk*. Ljouwert. AFUK.
- Boutkan, D. F. H. 2001. “Morphology of Old Frisian”. Munske (Hrsg.). 620-626.
- Braren, E./Wilts, O./Sjölin, B. 1988². *Fering för beganern: Programmierter Lehrgang des Föhrer Friesisch. (Didactica Frisica 1)*. Kiel. Nordfriesische Wörterbuchstelle der Christian-Albrechts-Universität Kiel.
- Breuker, P. 1982. “Ta de oergong ke>tsje yn it ferlytsingswurd”. *It Beaken* 44. 85-95.
- Breuker, P. 1989/90. “Taalideology, taalnoarm en taalsimplisme I, II.” *Us Wurk* 38, 39. 65-94/105-143.
- Breuker, P. 2003. “Ferantwurdig en útwurking fan noarmaspekten yn it *Hânwurdboek I-II* en yn it *WFT*”. *Us Wurk* 52. 19-76.

- Breuker, P. e. o. 1992². *Foar de taalspegel. Koart oersjoch fan Hollânske ynslûpsels yn it Frysk*. Ljouwert. AFUK.
- Brockhaus-Wahrig. 1980-1984. *Deutsches Wörterbuch in sechs Bänden*. Wiesbaden/Stuttgart. Brockhaus/Deutsche Verlags-Anstalt.
- Cohen, A./Ebeling, C. L./Fokkema, K./Van Holk, A. G. F. 1978². *Fonologie van het Nederlands en het Fries*. 's-Gravenhage. Nijhoff.
- Curme, G. O. 1977¹¹ (1922). *A grammar of the German language*. New York. Frederick Ungar Publishing Co.
- De Boer, R. 1985/1986. "Ien en oar oer de oansprekfoarmen yn it Nijfrysk (I)-(VII)". *De Pompeblêden*. 56/57. 1985: (I) 264-265, 1986: (II) 8-9, (III) 25-27, (IV) 44-45, (V) 56-57, (VI) 72-73, (VII) 111-113.
- De Graaf, T. 1985. "Phonetic aspects of the Frisian vowel system". *NOWELE* 5. 23-40.
- De Graaf, T./Tiersma, P. 1980. "Some phonetic aspects of breaking in West Frisian". *Phonetica* 37. 109-120.
- De Haan, G. J. 1978/79. "Onafhankelijke PP-komplementen van nomina". *Spektator* 8. 330-339.
- De Haan, G. J. 1983. "The position of the finite verb in Frisian". *Friser-studier* III. 37-48.
- De Haan, G. 1986. "Frysk prate en praten". *Tydskrift foar Fryske Taalkunde* 2. 1-11.
- De Haan, G. 1987a. "De syntacticus als frisist". Dyk/Hoekstra (útj.). 1987. 57-80.
- De Haan, G. 1987b. "De *en* + ymperatyf". Dyk/Hoekstra (útj.) 1987. 24-31.
- De Haan, G. 1988. "Nasalearring en rekking yn it Frysk". Dyk/De Haan (útj.). 45-59.
- De Haan, G. J. 1990. "Hoofd- en bijzinnen: Traditie en progressie". *Handelingen van het 40ste Nederlands Filologencongres*. 's-Gravenhage. SDU Uitgeverij. 203-213.

- De Haan, G. J. 1992. "The verbal complex in Frisian". *Us Wurk* 41. 59-92.
- De Haan, G. J. 1993. "The third construction in Frisian". *Dialektsyntax. Linguistische Berichte. Sonderheft* 5/1993. 161-179.
- De Haan, G. J. 1994. "Inflection and cliticization in Frisian -sto, -ste, -st". *NOWELE*. 23. 75-90.
- De Haan, G. J. 1996. "Recent changes in the verbal complex of Frisian". Petersen/Nielsen (ed.). 171-184.
- De Haan, G. J. 1997. "Voegwoordcongruentie in het Fries". Hoekstra/Smits (red.). 50-67.
- De Haan, G. J. 1999. "Frisian monophthongs and syllable structure". *Us Wurk* 48. 19-30.
- De Haan, G. J./Koefoed, G. A. T./Des Tombe, A. L. 1979⁵. *Basiskursus algemene taalwetenschap*. Assen. Van Gorcum.
- De Haan, G./Weerman, F. 1986. "Finiteness and verb fronting in Frisian". Haider, H./Prinzhorn, M. (eds.). *Verb second phenomena in Germanic languages*. Dordrecht/Riverton. Foris. 77-110.
- De Haan, R. 1995. *Mei freonlike groetnis — Skriuwwizer mei stekwurden en foarbylden*. Ljouwert. Taalburo Fryske Akademy.
- De Haas, W./Trommelen, M. 1993. *Morfologisch handboek van het Nederlands*. 's-Gravenhage. SDU Uitgeverij.
- De Jong, J. 1977. *Taalomgongen — Taallessen foar it fuortset ûnderwiis en kursussen*. Ljouwert. AFUK.
- De Rooy, J. 1965. *Als-of-dat. Enkele conjuncties in ABN, dialect en Fries*. Assen. Van Gorcum.
- De Rooy, J. 1970. "Doare (+ te) infinitief". Hoekema/Poortinga/Spahr van der Hoeck (útj.). 247-250.
- De Vries, J./De Tollenaere, F. 1987 (1971). *Nederlands etymologisch woordenboek*. Leiden/New York/Köln. Brill.

- De Waart, A. A. J. 1971. "Constructies met *en* + "imperatiefzin" in het moderne Westerlauwerse Fries". *Stúdzjekonferinsje Frysk*. Ljouwert. 3-31.
- Dyk, S. 1987. "Oer syllabisearring". *CO-FRISICA* III. 117-141.
- Dyk, S. 1988. "Oer it foarheaksel *witte-* (*wittehoe-*) en syn syntaktysk komôf". Dyk/De Haan (útj.). 21-44.
- Dyk, S. 1991. "Om as partikel fan struktuerleaze aktiviteiten". *Tydskrift foar Fryske Taalkunde* 6. 69-98.
- Dyk, S. 1992a. "Aspekt en nomenynkorporaasje". *Philologia Frisica anno 1990*. Ljouwert. Fryske Akademy. 49-61.
- Dyk, S. 1992b. "Warum gibt es im westerlauwersschen und Föhrer Friesisch eine Nomeninkorporation?". Faltings/Walker/Wilts (Hrsg.). 143-169.
- Dyk, S. 1996. "From inflected material adjectives to the history of schwa apocope in West Frisian: Diverging influences on a sound change". Petersen/Nielsen (Hrsg.). 55-67.
- Dijk, S. 1997. *Noun incorporation in Frisian*. Ljouwert. Fryske Akademy.
- Dyk, S./De Haan, G. (útj.). 1988. *Wurdfoarried en wurdgrammatika — In bondel leksikale stúdzjes*. Ljouwert. Fryske Akademy.
- Dyk, S./Hoekstra, J. (útj.). 1987. *Ta de Fryske syntaksis*. Ljouwert. Fryske Akademy.
- Dykstra, A. 1985. "Besprek: Pieter Meijes Tiersma, Frisian reference grammar". *Tydskrift foar Fryske Taalkunde* 1. 90-98.
- Dykstra, A. 1996. "The dictionary representation of the Westerlauwers Frisian modal particle *doch*". Petersen/Nielsen (Hrsg.). 69-79.
- Dykstra, A. 2000. *Frysk-Ingelsk wurdboek/Frisian-English dictionary*. Ljouwert/Leeuwarden. Fryske Akademy/Afûk.
- Dijkstra, F. B. 1992². *Stavering*. Ljouwert. AFUK.
- Dykstra, K./Heeroma, K./Kok, W./Miedema, H. T. J. (útj.). 1960. *Fryske*

- stúdzjes oanbean oan prof. dr. J. H. Brouwer op syn sechtichste jierdei 23 augustus 1960.* Assen. Van Gorcum.
- Dijkstra, W. 1900-11. *Friesch woordenboek (Lexicon friscum)*. (1971 復刻版). Amsterdam/Leeuwarden. S. Emmering/De Tille.
- Duden 1999³. *Das große Wörterbuch der deutschen Sprache in zehn Bänden*. Mannheim/Wien/Zürich. Bibliographisches Institut.
- Duden-Grammatik. 1995⁴. *Duden-Grammatik der deutschen Gegenwartsprache*. (Der Große Duden Bd. 4). Mannheim et al. Dudenverlag.
- Ebert, K. H. 1989. “Aspektmarkierung im Fering (Nordfriesisch) und verwandten Sprachen”. Abraham/Jansen (Hrsg.). 293-322.
- Ebert, K. H./Hoekstra, J. 1996. “The progressive in West Frisian and North Frisian — Similarities and areal differences”. Petersen/Nielsen (Hrsg.). 81-101.
- Eisma, D. 1989. *Tiidwurden*. Ljouwert. AFUK.
- Evers, A. 1975. *The transformational cycle in Dutch and German*. Bloomington. Indiana University Linguistics Club.
- Faltings, V./Walker, A. G. H./Wilts, O. (Hrsg.). 1992. *Friesische Studien I*. Odense. Odense University Press. *NOWELE* Supplement vol. 8.
- Fokkema, K. 1967². *Beknopte Friese spraakkunst*. Groningen. Wolters.
- Fort, M. C. 1980. *Saterfriesisches Wörterbuch: mit einer grammatischen Übersicht*. Hamburg. Buske.
- Fridsma, B. J. 1979. *Introduction to Frisian*. Grand Rapids, Michigan. Calvin College.
- Gerritsen, M. 1991. *Atlas van de Nederlandse dialectsyntaxis (AND). Deel II. Kaarten*. Amsterdam. P. J. Meertens-Instituut.
- Goeman, A. C. M. 1980. “COMP-Agreement?”. Zonneveld, W./Weerman, F. (red.) *Linguistics in the Netherlands 1977-1979*. Dordrecht. Foris. 291-306.
- Goeman, T. “Historiografie van het onderzoek naar voegwoordver-

- voeging: een bibliografisch overzicht (1821-1996)". Hoekstra/Smits (red.). 112-145.
- Heuser, W. 1903. *Altfriesisches Lesebuch: Mit Grammatik und Glossar*. Heidelberg. Carl Winter.
- Hiemstra, I. 1986. "Some aspects of Wh-questions in Frisian". *Friser-studier* IV/V. 97-110.
- Hoekema, T. 1958. "In spesifyk Frysk syntagme". *Us Wurk* 7. 17-23.
- Hoekema, T. 1959. "In spesifyk Frysk syntagme". *Us Wurk* 8. 85-88.
- Hoekema, T. 1961. "Jan Jelles Hof oer al-as-dat-of-of". *Us Wurk* 10. 17-19.
- Hoekema, T. 1963/64. "Drie syntagmen uit oostelijk Friesland". *Driemaandelijke Bladen*. 15/16. 72-76.
- Hoekema, T. 1983. "Jitris: Hollânsk *er* adv. — Frysk *der*, Hollânsk *er* pron. — Frysk 'zero'". *Us Wurk* 32. 85-92.
- Hoekema, T. 1989. "It fergetten relativum *dy'tst* [dist] en de relaasje tusken pronominaal antesedint en relative bysin". *Us Wurk* 38. 141-144.
- Hoekema, Teake. 1990. "De bynwurden as, at, dat, of, oft". *Us Wurk*. 39. 64-76.
- Hoekema, Teake. 1992. *Kurze Formenlehre des Westerlauwersk Frysk. Aus V. Tams Jörgensen und Teake Hoekema: Frisisk-dansk ordbog med en kortfattet frisisk formlære. (Grins/Groningen 1968). Aus dem Dänischen übersetzt von Claas Riecken*. Kiel. Nordfriesische Wörterbuchstelle der CAU Kiel. (*Didactica Frisica* 9)
- Hoekema, T./Y. Poortinga/J. J. Spahr van der Hoeck (útj.). 1970. *Flecht op 'e koai. Stúdzjes oanbean oan Prof. Dr. W. J. Buma ta syn sechtichste jierdei*. Groningen. Wolters-Noordhoff.
- Hoeksema, J. 1980. "Verbale verstrengeling ontstrengeld". *Spektator* 9. 221-249.

- Hoekstra, E. 1993. "Dialectal variation inside CP as parametric variation". *Dialektsyntax. Linguistische Berichte. Sonderheft* 5. 161-179.
- Hoekstra, E./Smits, C. (red.). 1997. *Vervoegde voegwoorden*. Amsterdam. *Cahiers van het P. J. Meertens-Instituut* nr. 9.
- Hoekstra, J. 1985. "Oankundiging en besprek fan 'Friserstudier III. *Udgivet af Niels Danielsen, Erik Hansen, Hans Nielsen. Odense Universitetsforlag 1983*'. *It Beaken* 47. 48-51.
- Hoekstra, J. 1987. "It tiidwurd". Dyk/Hoekstra (útj.). 1987. 9-17.
- Hoekstra, J. 1988. "Wêrom brekt [o.ə] ta [wa]?". *Tydskrift foar Fryske Taalkunde* 4. 48-53
- Hoekstra, J. 1989a. "Bywurden fan tiid op -s". *Tydskrift foar Fryske Taalkunde* 5. 1-32.
- Hoekstra, J. 1989b. "Ta Gysbert Japicx *kryet, krie't* (3 sg. praes. fan *krite*)". *Us Wurk* 38. 127-134.
- Hoekstra, J. 1986. "t-Deletion before suffix-initial *st* in Modern West Frisian". *Friserstudier* IV/V. 43-56.
- Hoekstra, J. 1991a. "Expletive *der* and resumptive *pro* in Frisian". *Leuvense Bijdragen* 80. 61-80.
- Hoekstra, J. 1991b. "Oer it beklamjen fan ferhâldingswurden yn it Frysk, it Hollânsk en it Ingelsk". *Us Wurk* 40. 67-103.
- Hoekstra, J. 1992. "Ferlytsing en syn njonkenkategoryen". *Philologia Frisica* 1984. Ljouwert. Fryske Akademy. 131-150.
- Hoekstra, J. 1993a. "IG-tiidwurden en G-tiidwurden". *Us Wurk* 42. 1-68.
- Hoekstra, J. 1993b. "Omkearing en efterhelling: ta de partikels *werom* en *wer*". *Us Wurk* 42. 85-102.
- Hoekstra, J. 1994. "In nijsgjirrige folchoarderbeheining yn it Frysk en it spjalten fan foarnamwurdlike bywurden". *Philologia Frisica. Anno 1993*. 104-121.
- Hoekstra, J. 1994. "Pronoun and Case. On the distribution of Frisian

- harren* and *se* ‘them’”. *Leuvense Bijdragen* 83. 47-65.
- Hoekstra, J. 1995. “Preposition stranding and resumptivity in West Germanic”. Haider, H./Olsen, S./Vikner, S. (eds.). *Studies in comparative Germanic syntax*. Dordrecht/Boston/London. Kluwer. 95-118.
- Hoekstra, J. 未刊. “The split CP hypothesis and the Frisian complementizer system”. 1-19.
- Hoekstra, J. 1997. *The syntax of infinitives in Frisian*. Ljouwert/Leeuwarden. Fryske Akademy.
- Hoekstra, J. 1998. *Fryske wurdfoarming*. Ljouwert. Fryske Akademy.
- Hoekstra, J. 1999. “Frysk *fernimme* as in a. c. i-tiidwurd”. *Us Wurk* 48. 10-18.
- Hoekstra, J. 2001. “Standard West Frisian”. Munske (Hrsg.). 83-98.
- Hoekstra, J./Marácz, L. 1989a. “Some implications of I-movement in Frisian”. Bennis, H./Van Kemenade, A. (eds.). *Linguistics in the Netherlands 1989*. Dordrecht. Foris. 81-90.
- Hoekstra, J./Marácz, L. 1989b. “On the position of inflection in West Germanic”. *Working Papers in Scandinavian Syntax* 44. 75-88.
- Hoekstra, J./Tiersma, P. M. 1994. “Frisian”. König, E./Van der Auwera, J. (ed.). *The Germanic Languages*. London/New York. Routledge. 505-531.
- Hoekstra, J./Visser, W. 1996. “*De- en it-wurden yn it Frysk*”. *Us Wurk* 45. 55-78.
- Hof, J. J. 1933. *Friesche dialectgeographie*. 's-Gravenhage. Nijhoff.
- Hofstra, T. 1989. “In nijsgjirrich boek oer ‘Noard-see-germaanske’ ûntjouwingen en it Aldfrysk (oer: M. L. A. I. Philippa, *Noord-zee-germaanse ontwikkelingen*)”. *Tydskrift foar Fryske Taalkunde* 5. 33-38.
- Holthausen, F./Hofmann, D. 1985². *Altfriesisches Wörterbuch*. Heidelberg. Carl Winter.

- Honselaar, W. 1987. “Zijn vs. Hebben in het samengesteld perfectum”. *De Nieuwe Taalgids* 80. 55-68.
- It Nije Testamint. Ut it Gryksk oerset yn it Frysk fen Dr. G. A. Wumkes. 1933. Amsterdam. Nederlandsch Bijbel Genootschap.
- 影山太郎. 1993. 『文法と語形成』. ひつじ書房.
- 影山太郎/由本陽子. 1997. 『語形成と概念構造』. 研究社.
- 亀井/河野/千野 (編) 1996. 『言語学大辞典第6巻述語編』. 三省堂.
- Karsten, G. 1946. “Een Fries-Vlaamse constructie met ‘om’”. *It Beaken* 8. 48-50.
- Kern, J. H. 1912. *De met het participium praeteriti omschreven werkwoordsvormen in 't Nederlands*. Amsterdam.
- Kirsner, R. S. 1969. “The role of *zullen* in the grammar of Modern Standard Dutch”. *Lingua* 24. 101-145.
- Klappenbach, R./Steinitz, W. 1964-1977. *Wörterbuch der deutschen Gegenwartssprache. 6 Bände*. Berlin. Akademie-Verlag.
- Kluge, F. 1995²³. *Etymologisches Wörterbuch der deutschen Sprache*. (bearbeitet von E. Seebold). Berlin/New York. Walther de Gruyter.
- 兒玉仁士. 1992. 『フリジア語文法』 (大学書林)
- 兒玉仁士. 2004. 『フリジア語辞典』 (大学書林)
- Kroch, A./Santorini, B. 1991. “The derived constituent structure of the West Germanic verb-raising construction”. Robert, F. (ed.). *Principles and parameters of comparative grammar*. Cambridge. MIT Press. 269-338.
- Krol, J. 1985. “It pronomen *men* yn it skreaune Frysk oant 1950”. *Us Wurk* 34. 1-36.
- Liberman, A. 1987. “Review of G. van der Meer, *Frisian ‘breaking’*. *Aspects of the origin and development of a sound change* (1985)”. *Lingua* 73. 125-130.
- Meijering, H. D. 1980. “d(e)-deletion in the past tense of the class II weak

- verb in Old Frisian". Van Alkemade, D. J. et al. (eds.). *Linguistic studies offered to Berthe Siertsema*. Amsterdam. Rodopi. 277-286.
- Miedema, H. J. T. 1958. "De Nieuwfriese breking en zijn verspreiding". *Taal en Tongval* 10. 148-156.
- Munske, H. H. (Hrsg.). 2001. *Handbuch des Friesischen/Handbook of Frisian studies*. Tübingen. Niemeyer.
- Oosterhout, M. 1960. "It gebrûk fan preposysjes by plaknammen". *Us Wurk* 9. 51-67.
- Overdiep, G. S. 1938/39. "Over Nederlandsche en Friese taalkunde". *It Beaken* 1. 68-84. (再録 Overdiep. 1947. 136-153).
- Overdiep, G. S. 1947. *Volkstaal en dialektstudie. Verzamelde opstellen over taal- en letterkunde* (bezorgd door G. A. van Es). Antwerpen. N. V. Standaard-Boekhandel.
- Overdiep, G. S. 1937. "Het belang van het Friesch voor de studie van het Nederlandsch". *Frysk Jierboek* 1937. 110-124. (再録 Overdiep. 1947. 119-129)
- Paardekooper, P. C. 1958. *ABN-spraakunst. Voorstudies — tweede deel*. Den Bosch. Malmberg.
- Paardekooper, P. C. 1987². *ABN uitspraakgids*. Antwerpen. Heideland-Orbis.
- Paul, H./Wiehl, P./Grosse, S.. 1989²³. *Mittelhochdeutsche Grammatik*. Tübingen. Niemeyer.
- Petersen, A./Nielsen, H. F. (Hrsg.). 1996. *A Frisian and Germanic Miscellany — Published in honour of Nils Århammar on his sixty-fifth birthday, 7 August 1996*. NOWELE 28/29.
- Pfeiffer, W. (Hrsg.). 1993². *Etymologisches Wörterbuch des Deutschen*. München. Deutscher Taschenbuch Verlag.
- Piebenga, J. 1957. *Koarte skiednis fan de Fryske Skriftekennisse*. Drachten. Laverman.

- Popkema, J. 1979. "As alle assen iene wiene". *It Beaken* 41. 259-290.
- Popkema, J. 1987. "Inkelde opmerkings oer Fryske en Nederlânske syntaksis". Dyk/Hoekstra (útj.). 46-56.
- Postma, W. K. 1982³. *Hochdeutsche Sprachlehre*. Groningen. Wolters-Noordhoff.
- Riemersma, Tr. 1979. *Sylabysjerring, nazzaljerring, assymyljerring*. Ljouwert. Koporative Utjowerij.
- Schuurman, I. 1987. "Incorporation in the Groningen dialect". Beukema/Coopmans (eds.). 185-194.
- 清水 誠(訳). 1992. 「北フリジア語モーリング方言 (1). 文法 — V. Tams Jörgensen: Kort spräkeliir foon dat mooringer fräsch 訳注」『北海道大学文学部紀要 40-3』65-162.
- 清水 誠(訳). 1992. 「A. ヴェイネン：オランダ語歴史文法における構造的要因」(A. Weijnen: Structurele factoren in de historische grammatica van het Nederlands. Assen. Van Gorcum. 1966) 『ノルデン 第29号』71-114.
- 清水 誠. 1993. 「言語接触とゲルマン語の類型 — フリジア語群を中心に (1)」『独語独文学科研究年報 第20号 — 青柳教授退官記念号』(北海道大学ドイツ語学文学研究会)283-299. (『日本アイスランド学会会員公刊論集 第11号』1994. 59-76)
- 清水 誠. 1993. 「言語接触の諸相 — 言語接触とゲルマン語の類型」『北海道大学言語文化部紀要 第24号』22-23. (『日本アイスランド学会会員公刊論集 第11号』85-87)
- Shimizu, M. 1993. "Naar aanleiding van Hitoshi Kodama, *Fryske grammatika*". *Us Wurk* 42. 103-114.
- 清水 誠. 1994. 「フリジア人とフリジア語」『基礎ドイツ語 第45巻第2号』72-73.
- 清水 誠. 1994. 「北フリジア語モーリング方言の音韻」『岩崎英二郎/橋本郁雄他著. ドイツ語学研究 2』クロノス. 445-503.

- 清水 誠. 1994. 「言語接触とゲルマン語の類型 —— フリジア語群を中心に (2)」『独語独文学科研究年報 第 21 号』(北海道大学ドイツ語学文学研究会) 1-6. (『日本アイスランド学会会員公刊論集 第 11 号』1994. 77-83)
- 清水 誠. 1995. 「西フリジア語の音韻と正書法 (1)」『北海道大学文学部紀要 44-1』37-81. (日本アイスランド学会会員公刊論集 第 12 号) 1995. 47-92)
- 清水 誠. 1995. 「西フリジア語の音韻と正書法 (2)」『北海道大学文学部紀要 44-2』43-111. (『日本アイスランド学会会員公刊論集 第 12 号』1995. 93-162)
- 清水 誠. 1996. 「西フリジア語文法記述の問題点」『北海道大学文学部紀要 44-3』41-107. (『日本アイスランド学会会員公刊論集 第 13 号』1996. 109-179)
- 清水 誠. 1996. 「西フリジア語の文法構造 —— 冠詞, 名詞, 形容詞」『北海道大学文法紀要 45-1』21-81. (『日本アイスランド学会会員公刊論集 第 13 号』181-241)
- 清水 誠. 1997. 「西フリジア語の文法構造 —— 代名詞」『北海道大学文学部紀要 45-2』79-176. (『日本アイスランド学会会員公刊論集 第 13 号』1996. 243-340)
- 清水 誠. 1997. 「西フリジア語の文法構造 —— 数詞, 副詞, der」(『北海道大学文学部紀要 45-3』171-246 (『日本アイスランド学会会員公刊論集 第 14 号』1997. 55-130)
- 清水 誠. 1997. 「ゲルマン語類型論から見た西フリジア語の「割れ」(Brechung)と「短母音化」について」『ドイツ文学 第 99 号』(日本独文学会) 17-27. (『日本アイスランド学会会員公刊論集 第 14 号』1997. 131-141)
- 清水 誠. 1997. 「西フリジア語の文法構造 —— 前置詞と後置詞 (1)」『北海道大学文学部紀要 46-1』23-62. (『日本アイスランド学会会員公刊論集 第 15 号』1998. 81-120)
- 清水 誠. 1998. 「西フリジア語の文法構造 —— 前置詞と後置詞 (2)」『北海道大学文学部紀要 46-2』41-64. (『日本アイスランド学会会員公刊論集 第 15 号』1998. 121-144)

- 清水 誠. 1998. 「西フリジア語の文法構造 — 接続詞」『北海道大学文学部
紀要 46-3』 65-121.
- 清水 誠. 1998. 「西フリジア語の文法構造 — 動詞 (1)」『北海道大学文学部
紀要 47-2』 21-97.
- 清水 誠. 1998. 「西フリジア語の文法構造 — 動詞 (2)」『北海道大学文学部
紀要 47-3』 53-72.
- Shimizu, M. 1998. “Ohne Identität kein glückliches Leben — Interview
mit Professor Makoto Shimizu”. *Nordfriesland — Zeitschrift für
Kultur, Politik, Wirtschaft. Nr. 124. Sprachenland Nordfriesland.* 44-
47.
- 清水 誠. 1999. 「西フリジア語の文法構造 — 動詞 (3)」『北海道大学文学部
紀要 47-4』 89-124.
- 清水 誠. 1999. 「西フリジア語の文法構造 — 動詞 (4)」『北海道大学文学部
紀要 48-1』 21-55.
- 清水 誠. 1999. 「標準オランダ語の発音とその背景」『ノルデン 第 36 号』
15-72.
- 清水 誠. 1999. 「De Plattduitsche Baibel に会おうまで」『ノルデン 第 36
号』 81-98.
- 清水 誠. 1999. 「フリジア語群の変容と言語研究 — 多言語使用におけるア
イデンティティー」『京都ドイツ語研究会会報 第 13 号』 6-10.
- 清水 誠. 1999. 「ゲルマン語類型論の視点 — 連続性と離散性の概念を中心
に」佐藤俊一編. 『連続性概念による言語モデルの再構築 — ドイツ語学
研究の諸相から』 (平成 8 年度～9 年度科学研究費補助金研究成果報告
書) 123-137.
- 清水 誠. 2000. 「低地ドイツ語聖書の伝統と De Plattduitsche Baibel (over-
settet von Friedrich Wille 1997)」『ドイツ文学 第 104 号』 (日本独文
学会) 189-191.
- 清水 誠. 2000. 「西フリジア語の文法構造 — 動詞 (5)」『北海道大学文学研
究科紀要 101』 93-129.

- 清水 誠. 2000. 「ゲルマン語類型論の構想」『京都ドイツ語学研究会会報 第14号』57-70.
- 清水 誠. 2000. 「西フリジア語の名詞抱合の特徴と抱合動詞の形成」『日本言語学会 第121回大会予稿集』19-23.
- 清水 誠. 2002. 「西フリジア語の文法構造 — 動詞 (6)」『北海道大学文学研究科紀要 108』23-100.
- 清水 誠. 2002. 「フリジア語群の三つの生態と多言語使用」『ドイツ文学 第108号』（日本独文学会）45-58.
- 清水 誠. 2002. 『ドイツ語・オランダ語・フリジア語の対照文法記述 — 西ゲルマン語類型論に向けて』（平成10年度～平成13年度科学研究費補助金研究成果報告書. 基盤研究 (C)(2) 研究代表者 清水 誠）400 pp.
- 清水 誠（書評）. 2003. 「河崎 靖／クレインス フレデリック著『低地諸国（オランダ・ベルギー）の言語事情 — ゲルマンとラテンの間で — 』」『ドイツ文学（新版）1巻第2号（通巻110号）』（日本独文学会）294-296.
- Shimizu, Makoto. 2003. “Fryske groetenis út Japan”. *Nijsbrief — Mien-skiplike útjefte fan It Frysk Boun om Utens & Selskip foar Fryske Tael en Skriftekennisse* 18. 9-10.
- 清水 誠. 2003. 「ことばというパスポート 31 フリジア語」『言語 第32巻第7号』大修館. 88-91.
- 清水 誠. 2003. 「西フリジア語の文法構造 — 動詞 (7)」『北海道大学文学研究科紀要 111』51-94.
- 清水 誠. 2003. 『西フリジア語文法 — 現代北海ゲルマン語の体系的構造記述とゲルマン語類型論構築のための基礎的研究』（博士論文（論文博士））. 北海道大学. xiii+838 pp.
- 清水 誠. 2004. 「西フリジア語の文法構造 — 動詞 (8)」『北海道大学文学研究科紀要 112』1-103.
- 清水 誠. 2004. 『現代オランダ語入門』大学書林. viii+324 pp.
- 清水 誠. 2004. 「西フリジア語の文法構造 — 動詞 (9)」『北海道大学文学研究科紀要 113』65-108.

- 清水 誠. 2004. 「フリジア語とフリジア人について」『独語独文学研究年報 第 31 号』(北海道大学ドイツ語学・文学研究会, 印刷中)
- 清水 誠. 「フリジア人 — 北海沿岸を結ぶ言語の絆 —」『講座ファースト・ピープルズ 第 6 巻ヨーロッパ編』明石書店. (印刷中)
- Sipma, P. 1913. *Phonology & Grammar of Modern West Frisian*. London et al. Oxford University Press.
- Sipma, P. 1948. *Ta it Frysk I. Ynlieding, klanklear, stavering*. Ljouwert. R. van der Velde.
- Sipma, P. 1949a. *Ta it Frysk II. Wurdlear*. Ljouwert. R. van der Velde.
- Sipma, P. 1949b. *Ta it Frysk III. Bûgingslear, sinlear*. Ljouwert. R. van der Velde.
- Sytstra, O. H./Hof, J. J. 1925. *Nieuwe Friesche Spraakkunst*. Leeuwarden. R. van der Velde.
- Sjölin, B. 1969. *Einführung in das Friesische*. Stuttgart. Metzler.
- Sjölin, B. 1988. “Pieter Meijes TIERSMA, Frisian reference grammar. Dordrecht, Holland/Cinnaminson, USA. Foris Publications. 1985, 157 blz.”. *Leuvense Bijdragen* 77. 108-112.
- Sjölin, B. 1989. “Die friesischen Entsprechungen des niederländischen Pronominaladverbs ‘er’”. Porteman, K./Schöndorf, E. (Hrsg.). *Liber amicorum Prof. dr. Kåre Langvik-Johannessen*. Leuven. 55-62.
- Spenter, A. 1968. *Der Vokalismus der akzentuierten Silben in der Schiermonnikoger Mundart*. Kopenhagen. Munksgaard.
- Spenter, A. 1970. “Zur Genuskategorie im Neuwestfriesischen”. *Flecht op 'e koai. Stúdzjes oanbean oan Prof. Dr. W. J. Buma ta syn sechstichste jierdei*. Grins. Wolters-Noordhoff. 182-188.
- Steller, W. 1928. *Abriß der altfriesischen Grammatik*. Halle (Saale). Niemeyer.
- Stienstra, J. 1975² (1971¹). *Dat lestige tiidwurd. Helpboekje by it taelboek foar begjanners*. Ljouwert. AFUK.

- Stienstra, J. 1978. *Taalboek foar trochsetters*. Ljouwert. AFUK.
- Stienstra, J. 1982. *Taalboek foar begjanners*. Ljouwert. AFUK.
- Stienstra, J./De Vries, G./De Vries, J. W. 1982. *De stipe*. Ljouwert. AFUK.
- Tamminga, D. A. 1959. "Fan sinnen en bysinnen". *Pompeblêden* 30. 85-88.
- Tamminga, D. A. 1963. *Op 'e taelhelling I*. Boalsert. Osinga.
- Tamminga, D. A. 1973. *Op 'e taelhelling II*. Boalsert. Osinga.
- Tamminga, D. A. 1984. "Doarsto dat wol (te) dwaan?". *De Pompeblêden* 58. 29.
- Tamminga, D. A. 1987. "Lit it net by sillen bliuwe". *De Pompeblêden* 58. 180.
- Ten Cate, A. P./Jordens, P. 1990. *Phonetik des Deutschen. Eine kontrastiv deutsch-niederländische Beschreibung für den Zweitspracherwerb*. Dordrecht/Providence RI. Foris.
- Tiersma, P. M. 1979a. *Aspects of the phonology of Frisian based on the language of Grou*. Stúdzjerjochting Frysk oan de Frije Universiteit yn Amsterdam. *Meidielingen*. Nûmer 4. Amsterdam. Vrije Universiteit, Studierichting Fries/Fryske Akademy.
- Tiersma, P. M. 1979b. "Breaking in West Frisian: A historical and synchronic approach". *Utrecht Working Papers in Linguistics* 8. 1-41.
- Tiersma, P. M. 1985 (1999²). *Frisian reference grammar*. Dordrecht/Cinnaminson. Foris. (Ljouwert. Fryske Akademy).
- Tiersma, P. 1986. "Comments on the development of breaking". *Us Wurk* 35. 1-11.
- ULI'S, rige A1-20, rige B1-20, rige C1-20. 1978-1984. Ljouwert. AFUK.
- Van Blom, Ph. 1889. *Beknopte Friesche spraakkunst*. Joure. R. P. Zijlstra.
- Van Coetsem, F. 1960. "De Friese relativa en conjuncties met 't". Dykstra/Heeroma/Kok/Miedema (útj.). 327-334.
- Van Dale. 1992¹². *Groot woordenboek der Nederlandse taal. 3 dln.* Utrecht/Antwerpen. Van Dale Lexicografie.

- Van Dam, J. 1972. *Syntax der deutschen Sprache*. Groningen. Wolters-Noordhoff.
- Van Dam, J. 1958³. *Handbuch der deutschen Sprache. II. Wortlehre*. Groningen. J. B. Wolters.
- Van der Meer, G. 1975. "The imperativus pro infinitivo reconsidered". *Us Wurk* 24. 19-34.
- Van der Meer, G. 1977. "Frisian breaking: A hypothesis about its historical development". *Us Wurk* 26. 9-24.
- Van der Meer, G. 1985. *Frisian 'breaking': Aspects of the origin and development of a sound change*. *Estrikken* 66. Grins/Groningen. Stifting FFYRUG.
- Van der Meer, G. 1986. "Frisian 'breaking'". *NOWELE* 8. 33-56.
- Van der Meer, G. 1987. "It is in dregen baas. De bûgings' *-(e)n* bij eigenskipswurden". *Us Wurk* 36. 97-111.
- Van der Meer, G. 1988a. "In 'achterheaksel' {SK} en it leksikon". Dyk/De Haan (útj.). 121-135.
- Van der Meer, G. 1988b. "*k*-verbs in some West-Germanic languages". *NOWELE* 11/12. 51-72/3-14.
- Van der Meer, G. 1989. "Some aspects of verbal repetition and diminution". Abraham/Jansen (Hrsg.). 323-341.
- Van der Meer, G. 1990. "Ta de ferlytsingswurden en tiidwurden op *-je*". *Us Wurk* 39. 49-63.
- Van der Meer, G. 1991a. "The 'conjugation' of subclause introducers: Frisian *-st*". *NOWELE* 17. 63-84.
- Van der Meer, G. 1991b. "The subclause signal 't in Frisian: Its origin and function". *Lewense Bijdragen* 80. 43-59.
- Van der Meer, G./De Graaf, T. 1986. "Sandhi phenomena in Frisian". Andersen, H. (ed.). *Sandhi phenomena in the Languages of Europe*. Berlin/New York/Amsterdam. Mouton, de Gruyter. 301-328.

- Van der Veen, J./Oldenhof, B. 1990. *Bekjegau — Materiaal foar kursussen Frysk foar net-Frysktaligen*. Ljouwert. AFUK.
- Van der Woude, G. 1960. “Oer it gebrûk fan’t by bynwurden”. Dykstra/Heeroma/Kok/Miedema (útj.). 335-343.
- Van der Woude, G. 1971. “De wjerljocht hat ynslein — De bliksem is ingeslagen; enige aspekts- en tijsaanduidingen in het Fries vergeleken met het Nederlands”. *Driemaandelijke Bladen* 23. 137-144.
- Van der Woude, G. 1981. *Fremd wurdt eigen I. Learboek foar it oanlearen fan it Frysk*. Ljouwert. AFUK.
- Van Ginneken, J. 1939. “De vervoeging der onderschikkende voegwoorden en voornaamwoorden”. *Onze Taaltuin* 8. 1-11.
- Van Haeringen, C. B. 1939. “Congruerende voegwoorden”. *Tijdschrift voor Nederlandse taal- en letterkunde*. LXIII. 215 vlgg. (再録 *Neerlandica*. 1949. 's-Gravenhage. D. A. Daamen's Uitgevermaatschappij N. V. 246-259)
- Van Loey, A. 1970⁸. *Schönfelds Historische grammatica van het Nederlands*. Thieme. Zutphen.
- Van Riemsdijk, H. C. 1978. *A case study in syntactic markedness: The binding nature of prepositional phrases*. *Studies in generative grammar* 4. Lisse. The Peter De Ridder Press.
- Van Wijk, N. 1912 (1980). *Franck's etymologisch woordenboek der Nederlandsche taal*. 's-Gravenhage. Nijhoff.
- Veenstra, D. H. 1988. “Oer de grammatika fan be-ferba”. Dyk/De Haan (útj.). 136-174.
- Veenstra, D. H. 1989. “/d/-Rotasisme yn it Frysk. Fonetyske en fonologyske aspekten fan de oergong ynterfokalyske/d/>/r/”. *Tydskrift foar Fryske Taalkunde* 5. 41-67.
- Vikner, S./Sprouse, R. A. 1988. “Have/Be-selection as an A-chain membership requirement”. *Working Papers in Scandinavian Syntax* 38.

- Visser, W. 1985. *Frysk Wurdboek. Nederlânsk-Frysk*. Drachten/Ljouwert. Osinga/Fryske Akademy.
- Visser, W. 1985a. “Ta de nasalearring yn it Frysk”. *Tydskrift foar Fryske Taalkunde* 1. 33-49.
- Visser, W. 1985b. “Ta de nasalearring yn it Frysk (diel II)”. *Tydskrift foar Fryske Taalkunde* 1. 69-89.
- Visser, W. 1988a. “In pear klitisearringsferskynsels yn it Frysk”. Dyk/De Haan (útj.). 175-222.
- Visser, W. 1988b. “Wêrom’t progressive assimilaasje yn it Frysk net bestiet”. *Tydskrift foar Fryske Taalkunde*. 4. 1-20.
- Visser, W. 1989a. “Oer ferlytsing nei felaren”. Riemersma, A. M. J./Riemersma, T./Visser, W. (útj.). *Frysk & Frije Universiteit (1949-1989)*. Amsterdam. VU Uitgeverij. 193-202.
- Visser, W. 1989b. “Ta de nominale ynfinityf yn it Frysk”. *Philologia Frisica* 1988. Ljouwert. Fryske Akademy. 51-74.
- Visser, W. 1990. “Breking en de gevolgen”. *TTT (Interdisciplinair Tijdschrift voor Taal- & Tekstwetenschap)* 9. 255-272.
- Visser, W. 1992. “Oer -je en -JE. De morfology en fonology fan it einichste wurd diel -je”. *Tydskrift foar Fryske Taalkunde*. 7. 69-87.
- Visser, W. 1993. “In kwestje fan haastjen: oer hoe’t yn it Frysk de sekwinsjes -sts- en -tjə mijd wurde”. *Tydskrift foar Fryske Taalkunde* 8. 123-130.
- Visser, W. 1997. *The syllable in Frisian*. HIL Dissertations 30. The Hague. Holland Academic Graphics.
- Vledder, G./De Jager-de Boer, T. 1991. *Frysk skoalwurdboek*. Ljouwert. AFUK.
- Vries, O. 1993. “Yn’e Westereen is in breeween jin ’e treen fleen. Oer de útspraak fan de staveringsstekens *ei* en *ij* as [e:] yn it Wâldfrysk”. *Tydskrift fan de Fryske Taalkunde* 8. Foar Tony Feitsma. 131-137.

- Walker, A./Sjölin, B. 1986. *Frasch for önjfångere — Programmierter Lehrgang des Föhrer Friesisch. (Didactica Frisica 2)*. Kiel. Nordfriesische Wörterbuchstelle der Christian-Albrechts-Universität Kiel.
- Weggelaar, C. 1986. “Noun incorporation in Dutch”. *International Journal of American Linguistics* 52. 301-305.
- Werner, O. 1993. “Schwache Verben ohne Dental-Suffix im Friesischen, Färöischen und im Nynorsk”. Schmidt-Radefeldt, J./Harder, A. (Hrsg.). *Sprachwandel und Sprachgeschichte. Festschrift für Helmut Lüdtke zum 65. Geburtstag*. Tübingen. Narr. 221-237.
- WFT: *Wurdboek fan de Fryske taal* 1. 1984～. Ljouwert/Leeuwarden. Fryske Akademy/De Tille.
- Wolf, H. 1995. “Ynvertearre tiidwurdkloften yn it Ynterferinsjefrysk”. *Tydskrift foar Fryske Taalkunde* 10. 1-11.
- Zantema, J. W. 1984. *Frysk Wurdboek. Frysk-Nederlânsk*. Drachten/Ljouwert. Osinga/Fryske Akademy.
- Zhluktenko, Ju. A./Dvukhzhilov, A. V. 1984. *Frizskij jazyk*. Keiv. Naukova Dumka.

目 次

§ 1～§ 10 「西フリジア語の音韻と正書法 (1)」

(Lûdlear en stavering fan it Westerlauwersk Frysk (1))

『北海道大学文学部紀要 44-1. 第 85 号』1995. 37-81

音韻と正書法

§ 1 はじめに

§ 2 アルファベット

I 母音

§ 3 はじめに

(1) 母音の種類と特徴

(2) 閉音節と開音節

§ 4 短母音

(1) 短母音の種類

(2) 解説と用例

§ 5 長母音

(1) 長母音の種類

(2) 解説と用例

§ 6 二重母音

(1) 二重母音の種類

(2) 解説と用例

§ 7 その他の母音の発音

(1) 組み合わせの種類

(2) 解説と用例

§ 8 鼻音化と長音化

(1) 鼻音化

(2) 長母音化

§ 9 短母音化

(1) まとめ

(2) 個々の特徴

§ 10 「割れ」

(1) まとめ

(2) 個々の特徴

(3) 「割れ」と短母音化

§ 11～§ 25 「西フリジア語の音韻と正書法 (2)」

(Lûdlear en stavering fan it Westerlauwersk Frysk (2))

『北海道大学文学部紀要 44-2. 第86号』1995.43-111

II 子音 (bylûd)

§ 11 はじめに

§ 12 子音の種類

- (1) まとめ
- (2) 解説と用例
- (3) 半母音

§ 13 その他の子音の発音

§ 14 語末音の無声化

- (1) まとめ
- (2) 個々の例外
- (3) 縮小形接尾辞 -je [jə] と動詞派生接尾辞 -je [jə] での相違

§ 15 r の脱落

§ 16 二重子音の縮約

§ 17 t の脱落

- (1) [t] (語幹末) + [st] (語尾・接尾辞) → [st]
- (2) [sts] → [ss] → [s]
- (3) t (語幹末) + 副詞派生接尾辞 -s → -s

§ 18 その他の子音の脱落と変化

- (1) 異化
- (2) 形容詞派生接尾辞 -sk の発音
- (3) d の脱落
- (4) d の挿入
- (5) 破擦音化
- (6) その他の変化

§ 19 同化とそれに類似した現象

- (1) まとめ
- (2) 同化 (= 逆行同化)
- (3) 同化に類似した現象

§ 20 音節化

- (1) まとめ
- (2) 個々の場合の特徴

III アクセント

§ 21 アクセント

- (1) まとめ
- (2) あいまい母音
- (3) 単一語のアクセント
- (4) 派生語のアクセント
- (5) 合成語のアクセント

IV 正書法

§ 22 母音字

§ 23 子音字

§ 24 正書法上の注意点

- (1) 子音字の重複
- (2) 母音字の表記
- (3) w の表記
- (4) 大文字書き

§ 25 旧正書法との対応

§ 26～§ 35 「西フリジア語の文法構造 — 冠詞，名詞，形容詞 —」

(Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk — lidwurd, haadwurd, eigenskipswurd —)

『北海道大学文学部紀要 45-1. 第 88 号』1996. 21-81

形態と統語

I 冠詞

§ 26 定冠詞

- (1) 基本形
- (2) 弱形
- (3) 古形のなごり
- (4) 地名と冠詞

§ 27 不定冠詞

- (1) まとめ
- (2) 用法
- (3) 数詞 ien

§ 28 否定冠詞

- (1) まとめ
- (2) 用法

II 名詞

§ 29 文法性

- (1) まとめ
- (2) 文法性の区別
- (3) 派生語と複合語の文法性

§ 30 数

- (1) まとめ
- (2) 複数形の種類
- (3) 短母音化 (§ 9), 「割れ」 (§ 10) を伴うもの
- (4) 正書法上の注意
- (5) 数量の単位を表わす表現
- (6) 数の一致

§ 31 格

- (1) まとめ
- (2) 属格
- (3) 地名と数詞の語尾 ‘-er’
- (4) 与格のなごり
- (5) 「利害・関心」, 「所有」を表わす名詞句
- (6) 目的語の語順

§ 32 縮小形

- (1) まとめ
- (2) 縮小形の種類
- (3) 短母音化 (§ 9) と「割れ」 (§ 10)

(4) 縮小形による女性名

III 形容詞

§ 33 品詞の区別と用法の区別

§ 34 形容詞の語形変化と用法

- (1) まとめ
- (2) 語尾 -e/ 〈無語尾〉
- (3) 語尾 -en
- (4) 形容詞の名詞化
- (5) 語尾 -s
- (6) learaar Frysk 「フリジア語教師」など
- (7) 形容詞句の語順
- (8) 冠飾句

§ 35 比較

- (1) 語形変化
- (2) 用法

§ 36～§ 46 「西フリジア語の文法構造 — 代名詞 —」

(Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk — foarnamwurd —)

『北海道大学文学部紀要 45-2. 第 89 号』1997. 79-176

IV 代名詞

§ 36 人称代名詞：概観

- (1) まとめ
- (2) 語形
- (3) 解説

§ 37 人称代名詞の基本形と弱形

- (1) まとめ
- (2) 1 人称
- (3) 2 人称
- (4) 3 人称

- (5) 非人称代名詞と非人称構文
- (6) har(ren) [hár(ən)]/har [har] と se [sə]
- § 38 人称代名詞の連接形，主語の省略，補文標識の「活用」
 - (1) まとめ
 - (2) 3 人称単数男性/両性主格連接形 er [ər]
 - (3) 2 人称親称単数主格連接形 -o [o:u]/-e [ə] (← -do/-de)
 - (4) 主語の省略
 - (5) 人称語尾 -st と補文標識の「活用」
 - (6) dy'tst
- § 39 人称代名詞の再帰用法
 - (1) 再帰代名詞の欠如
 - (2) 再帰表現について
 - (3) 再帰的用法と非再帰的用法の人称代名詞
 - (4) sels
 - (5) 相互代名詞
- § 40 所有代名詞
 - (1) 限定形と独立形
 - (2) 個々の用法
 - (3) 所有代名詞限定形＋親族名称
 - (4) 「mei＋所有代名詞限定形＋数詞」など
- § 41 指示代名詞
 - (1) まとめ
 - (2) 個々の語形と用例
- § 42 不定代名詞
 - (1) まとめ
 - (2) men [mən] 「(話者を含めて一般的に) 人」
 - (3) その他の語形と用法
- § 43 疑問詞
 - (1) 疑問代名詞

(2) 疑問副詞

§ 44 疑問文

- (1) まとめ
- (2) 直接疑問文
- (3) 間接疑問文
- (4) その他の疑問文
- (5) 従属文に含まれる要素を問う疑問文
- (6) 感嘆文

§ 45 関係詞

- (1) はじめに
- (2) 関係代名詞
- (3) 関係副詞
- (4) sa't [sat] (…) 指示代名詞

§ 46 関係文

- (1) 分類
- (2) dy't と wa't ; dêr't と wêr't

§ 47～§ 58 「西フリジア語の文法構造 — 数詞, 副詞, der —」

(Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk — telwurd, bywurd, 'der' —)

『北海道大学文学部紀要 45-3. 第 90 号』1997. 171-246

V 数詞

§ 47 基数詞と序数詞

- (1) 語形
- (2) 解説

§ 48 数詞による表現

VI 副詞

§ 49 はじめに

§ 50 場所の副詞

- (1) 一般的な場所を表わすもの

- (2) 特定の場所を表わすもの

§ 51 時間の副詞と時間表現

- (1) 指示的な時間表現
- (2) 「名詞 -s」と「定冠詞＋名詞 -s」
- (3) その他の形式による配分的な意味の表現
- (4) その他の時間の副詞
- (5) その他の表現〈補足〉

§ 52 様態、程度・比較、論理関係の副詞

- (1) 様態の副詞
- (2) 程度・比較の副詞など
- (3) 論理関係の副詞

§ 53 話法の副詞

- (1) 蓋然性と評価・判断
- (2) 心態詞としての用法

VII der

§ 54 まとめ

§ 55 代名詞の der

- (1) まとめ
- (2) 相関詞の der
- (3) der の語順

§ 56 場所の der

§ 57 存在の der

- (1) 用法
- (2) 「存在の der」と「虚辞の der」 (§ 58)

§ 58 虚辞の der

- (1) まとめ
- (2) 個々の用法と用例
- (3) 言語使用上の要因
- (4) 疑問詞による制限

- (5) 受動文での der と it の使い分け
- (6) 「watfoar (in) + 名詞」の分離と「虚辞の der」
- (7) 「虚辞の der」と「代名詞の der」

§ 59～§ 61 「西フリジア語の文法構造 — 前置詞と後置詞 (1) —」

(Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk — ferhâldingswurd (1) —)

『北海道大学文学部紀要 46-1, 第 91 号』1997, 23-62

VIII 前置詞と後置詞

§ 59 はじめに

§ 60 前置詞

- (1) はじめに
- (2) 種類と用例

§ 61 前置詞のその他の用法, 前置詞の残留

- (1) 地名とともに用いる前置詞
- (2) 前置詞句を支配する前置詞
- (3) 不定詞句を伴う前置詞
- (4) 「代名詞の der」を伴うことができない前置詞
- (5) 「代名詞の der」による前置詞の残留
- (6) 名詞句による前置詞の残留
- (7) 場所の前置詞を欠く表現

§ 62～§ 63 「西フリジア語の文法構造 — 前置詞と後置詞 (2) —」

(Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk — ferhâldingswurd (2) —)

『北海道大学文学部紀要 46-2, 第 92 号』1998, 41-64

§ 62 後置詞 I — 名詞句を支配するもの

- (1) はじめに
- (2) 前置詞との意味の相違
- (3) 前置詞との語形の相違
- (4) 前置詞との用法の相違

(5) 種類と用例

§ 63 後置詞 II —— 前置詞句を支配するもの

(1) はじめに

(2) 名詞句を支配する後置詞との語形的な関係

(3) 意味

(4) 語順

(5) 種類と用例

§ 64～§ 67 「西フリジア語の文法構造 —— 接続詞 ——」

(Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk —— bynwurd ——)

『北海道大学文学部紀要 46-3. 第 93 号』1998. 65-121

IX 接続詞

§ 64 はじめに

§ 65 並列接続詞

(1) 用法

(2) 種類と用例

(3) 同じ意味で並列接続詞としても副詞としてもはたらくもの

§ 66 補文導入要素と補文標識

(1) 補文標識の用法と従属文の種類

(2) oft [ɔt] (口語 at [ɔt])

(3) as [ɔs]

(4) 補文標識の「活用」

§ 67 従属接続詞

(1) 用法と枠構造

(2) 種類と用例

(3) dat

§ 68～§ 73 「西フリジア語の文法構造 —— 動詞 (1) ——」

(Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk —— tiidwurd (1) ——)

『北海道大学文学部紀要 47-2, 第 95 号』1998, 21-97

X 動詞

§ 68 動詞の語形変化と文法範疇：概観

- (1) 定形と不定形
- (2) 定形
- (3) 不定形

§ 69 語形変化による動詞の分類：概観

- (1) 3つのクラスと下位分類
- (2) 語幹と人称語尾

§ 70 e- 動詞

- (1) 弱変化動詞：規則動詞 I
- (2) 弱変化動詞：規則動詞 II
- (3) 弱変化動詞：不規則動詞
- (4) 強変化動詞
- (5) 過去現在動詞

§ 71 je- 動詞

- (1) まとめと過去形 2 人称親称単数 -st (e)
- (2) 弱変化動詞：規則動詞 I
- (3) 弱変化動詞：規則動詞 II
- (4) 弱変化動詞：不規則動詞
- (5) 強変化動詞

§ 72 n- 動詞

- (1) まとめ
- (2) 種類と語形

§ 73 不規則動詞変化表

§ 74～§ 75 「西フリジア語の文法構造 — 動詞 (2) —」

(Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk — tiidwurd (2) —)

『北海道大学文学部紀要 47-3, 第 96 号』1998, 53-72

§ 74 時制と法

- (1) 現在形
- (2) 過去形
- (3) 命令形

§ 75 完了形と進行形

- (1) まとめ
- (2) 完了の助動詞 *hawwe*／*wêze*
- (3) 現在完了形
- (4) 過去完了形
- (5) 進行形

§ 76～§ 77 「西フリジア語の文法構造 — 動詞 (3) —」

(Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk — tiidwurd (3) —)

『北海道大学文学部紀要 47-4. 第 97 号』1999. 89-124

§ 76 話法の助動詞：概観

- (1) 語形変化
- (2) 語順
- (3) 不定詞を伴わない場合
- (4) 意味と用法
- (5) 非現実の表現

§ 77 話法の助動詞の種類と用例

- (1) 第 1 不定詞を伴うもの
- (2) *te*- 第 2 不定詞または第 1 不定詞を伴うもの

§ 78～§ 82 「西フリジア語の文法構造 — 動詞 (4) —」

(Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk — tiidwurd (4) —)

『北海道大学文学部紀要 48-1. 第 98 号』1999. 21-55

§ 78 受動態

- (1) まとめ

- (2) 人称受動
- (3) 非人称受動
- (4) 受動態の可否
- (5) その他の構文
- § 79 使役動詞
 - (1) litte
 - (2) その他の表現
- § 80 再帰動詞
 - (1) 本来的な再帰動詞
 - (2) 他動詞の再帰的用法
 - (3) その他
- § 81 非人称動詞
 - (1) 天候動詞
 - (2) ‘it is…’ による天候の表現
 - (3) その他の表現
- § 82 態にかんする語彙的表現
 - (1) まとめ
 - (2) 中間態動詞
 - (3) 能格動詞
 - (4) その他の場合
 - (5) 再帰・使役・非人称構文における用法の可否

§ 83～§ 85 「西フリジア語の文法構造 — 動詞 (5) —」

(Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk — tiidwurd (5) —)

『北海道大学文学研究科紀要 101』2000, 93-129

§ 83 名詞抱合：概観

- (1) はじめに
- (2) 特徴：まとめ

§ 84 名詞抱合：個々の特徴

- (1) 生産性など
- (2) 形態的特徴：抱合動詞の1語としての性質
- (3) 形態的特徴：被抱合名詞の語形
- (4) 形態的特徴：抱合動詞の語形変化
- (5) 意味的特徴
- (6) 統語的特徴：被抱合名詞
- (7) 統語的特徴：抱合動詞の項構造
- (8) 統語的制約
- (9) 名詞抱合の存在理由

§ 85 名詞抱合に類する現象

- (1) 類別的名詞抱合
- (2) 形容詞抱合
- (3) その他

§ 86～§ 88 「西フリジア語の文法構造 — 動詞 (6) —」

(Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk — tiidwurd (6) —)

『北海道大学文学研究科紀要 108』2002. 23-100

§ 86 分離動詞

- (1) 語形と意味
- (2) 語順
- (3) 分離成分の種類と意味
- (4) 分離動詞のその他の用法

§ 87 非分離動詞 I：be- による接頭辞動詞

- (1) 接頭辞
- (2) 接頭辞 be-

§ 88 非分離動詞 II：その他の接頭辞動詞

- (1) 接頭辞 fer-
- (2) 接頭辞 te-
- (3) 接頭辞 ûnt-

- (4) 接頭辞 mis-
- (5) 接頭辞 wjer-
- (6) 接頭辞 efter-/foar-/oan-/oer-/om-/troch-/ûnder-

§ 89～§ 93 「西フリジア語の文法構造 — 動詞 (7) —」

(Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk — tiidwurd (7) —)

『北海道大学文学研究科紀要 111』2003. 51-94

§ 89 派生動詞：概観

- (1) 動詞の派生
- (2) 接頭辞の役割
- (3) 接尾辞と品詞転換以外による派生動詞

§ 90 接尾辞による派生動詞

- (1) 接尾辞 -el/-er
- (2) 接尾辞 -k

§ 91 品詞転換による派生動詞

- (1) 品詞転換による派生動詞の種類
- (2) ゼロ品詞転換
- (3) 加音つき品詞転換
- (4) 加音 -ig とは別の -g による「gje- 動詞」

§ 92 現在分詞

- (1) まとめ
- (2) 現在分詞の用法
- (3) 形容詞化・名詞化した現在分詞

§ 93 過去分詞

- (1) まとめ
- (2) 過去分詞の用法：補足
- (3) 形容詞化した過去分詞など

§ 94～§ 98 「西フリジア語の文法構造 — 動詞 (8) —」

(Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk — tiidwurd (8) —)

『北海道大学文学研究科紀要 112』2004, 1-103.

§ 94 不定詞：まとめ

§ 95 第 1 不定詞 (e-不定詞)

- (1) 名詞用法
- (2) その他の用法

§ 96 第 2 不定詞 (en-不定詞)

- (1) 第 2 不定詞の名詞用法：第 1 不定詞との共通点と相違点
- (2) 「限定詞＋第 2 不定詞」と名詞句型構文/動詞句型構文
- (3) 知覚動詞構文 (ACI-構文)
- (4) 第 2 不定詞＋アスペクト動詞 bliuwe/gean
- (5) 第 2 不定詞＋komme
- (6) 名詞句＋{steane/sitten/lizzen/hingjen/rinnen}＋{hawwe/fine}
- (7) it {is/liket}＋形容詞＋第 2 不定詞
- (8) oan 't＋第 2 不定詞＋wêze (前置詞句進行形)

§ 97 te-第 2 不定詞

- (1) te-第 2 不定詞の分類
- (2) te-第 2 不定詞句を伴う他動詞 (制御動詞)
- (3) te-第 2 不定詞句を伴う話法動詞・アスペクト動詞 (繰り上げ動詞)
- (4) {steane/sitte/lizze/hingje/rinne}＋te-第 2 不定詞 (姿勢動詞進行形)
- (5) 「te-第 2 不定詞＋wêze」(受動・可能/必然)
- (6) 「名詞句＋te-第 2 不定詞＋hawwe」(可能・適切・必要・義務/必然)
- (7) 「te-第 2 不定詞＋{gean/wêze/話法の助動詞}」
- (8) 「前置詞…te-第 2 不定詞」と前置詞の om

(9) 補文標識の om

(10) te-第 2 不定詞の省略

§ 98 第 3 不定詞（命令形不定詞）と IPI-構文

(1) 「en+第 3 不定詞（命令形不定詞）」構文

(2) 並列型構文

(3) 従属型構文

(4) 命令形と第 3 不定詞（命令形不定詞）

(5) 「en+第 3 不定詞（命令形不定詞）」構文と「主文を伴う dat」

§ 99～§ 100 「西フリジア語の文法構造 — 動詞 (9) —」

(Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk — tiidwurd (9) —)

『北海道大学文学研究科紀要 113』2004. 65-108.

§ 99 動詞群の語順と相互承接

(1) 動詞群の語順と IPP-効果による代替不定詞

(2) IPP-効果による代替不定詞と「二重過去分詞」

(3) te-第 2 不定詞の語順：「オーヴェルディープ（Overdiep）の法則」

(4) 動詞群の用例

(5) オランダ語との比較

§ 100 否定詞 net と二重否定〈補足〉

(1) 否定詞 net の用法

(2) 否定詞 net と関連表現

(3) 二重否定と虚辞の net

あとがき

参考文献

* 本稿は平成 16 年度文部科学省・学術振興会科学研究費補助金による研究成果の一部である。研究課題：「西フリジア語文法記述のための最終的研究 — ゲルマン語類型論の構築に向けて」, 基盤研究 (C) (2), 課題番号 14510599 (研究代表者 北海道大学大学院文学研究科 教授 清水 誠)